

精神障害者の家族をもつ会「糸魚川市家族会」

糸魚川市家族会の役員の方からお話をお聞きしました。

「精神障害は、見た目で見えない人が多いので、病気がさせていることであっても、そうは見てもらえず、傷つくことがあります。しかし、精神障害のイメー

ジが悪く、誤解されたくないのに、なかなか人に伝えられないのが実情です」

病気や障害への理解が高まることを願ってやまない様子でした。

こころのバリアフリー講座

毎年、糸魚川白嶺高校で精神障害について学ぶ「こころのバリアフリー講座」を実施しています。精神障害者の方たちと高校生たちで意見交換をし、精神障害は誰でもなり得る可能性があること、正しく理解することが大切であることを学びました。



高校生たちから出た意見

- 最初、障害は大変そうで怖そうというイメージがあったが、誰でもなってしまうものだということを知ることができた。
- もし障害者の方が困っているのを見かけたら、声を掛けて助けたい。
- 見かけで判断せず、話をよく聞いてあげたい。
- 障害が原因で自殺しようとしたと聞いて、今生きてくれていて本当によかったと思う。

当事者としてお話しいただいた方に、高校生に自分の障害のことを話せるようになるまで回復できたことについてお聞きすると、

「時間の経過もありますが、周りの方が助けてくれたおかげでここまで回復できました。私は約2年間入院しましたが、入院中はとても良くしてもらいました。今も、妹や相談支援専門員の方が様子を見に訪ねてきてくれますし、ヘルパーさんも助けてくれます」と、周囲の皆さんへの感謝の気持ちを話してくれました。



みんなが安心して暮らせるまちへ



- 障害は、障害の種類に関係なく誰もがなり得る、身近なものです。
- 障害者の皆さんは、みんなと同じように暮らすこと、みんなが安心して暮らせるまちを望んでいます。
- 周囲の人が障害を正しく理解することで、より安心して暮らせるまちになります。
- お互いが遠慮なく助け合い、支えあえるまちをみんなで作りましょう。